

論文名：小唾液腺の口腔内超音波画像解剖アトラスの策定の試み（要約）

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 曾我 麻里恵

【目的】

唾液腺の診断・治療は口腔の健康において極めて重要である。大唾液腺については既に多くの画像解剖の知見が得られているが、小唾液腺に関しては、特に超音波画像解剖についてはほとんど知られていない。様々な口腔乾燥症状が大唾液腺ばかりでなく小唾液腺に起因することも知られてきており、今後の診断や治療の展開に小唾液腺の詳細な画像解剖アトラスが必要となることが予想される。本研究では口腔内超音波検査により、これまでほとんど検討されてこなかった小唾液腺の正常超音波画像解剖アトラスを策定することとした。

【対象・方法】

対象は、口腔乾燥感を含めた口腔領域の自覚症状の無い健常な成人ボランティア 20 名とした。日立社製 Preirus ならびにホッケースティック型術中用小型超音波プローブ EUP-O54J を使用して、高分子音響カップリング材を介在させて口腔内走査を行った。小唾液腺の描出基準は、内部エコーが周囲の脂肪組織よりも低く、筋より高い楕円形ないし紡錘形の構造を小唾液腺の腺葉群として評価した。口唇腺（上唇腺、下唇腺）、頬腺、口蓋腺、舌腺、臼歯腺について、描出状態ならびに大きさ・分布と血流状態の評価を行い、正常画像解剖所見を検討した。

【結果】

全ての対象者において、口唇腺では再現性のある画像が得られた。各対象者において最大のもは下唇腺で顔面動脈の近傍に認められ、平均で長径は 8.4 mm、短径は 2.2 mm であった。上唇腺は下唇腺よりも一回り小さく、平均で長径は 5.2 mm、短径は 1.5 mm であった。舌腺は舌下面前方部において左右対称に腺体が描出可能であったが、周囲の筋組織との判別はやや困難であった。舌腺の大きさは平均で長径が 7.2 mm、短径が 2.7 mm であった。頬腺、口蓋腺、臼歯腺は今回使用した超音波プローブでは描出が困難であり、典型像を得ることはできなかった。

【結論】

小唾液腺の口腔内超音波画像アトラスの策定は本邦初の試みである。下唇腺については、これまで報告されている MRI 検査によるものとはほぼ同等の結果であった。MRI を持たない施設においても、口腔内超音波検査を用いることでより低コストで簡便・非侵襲的に小唾液腺の評価が可能になると考えられる。また今回使用した超音波プローブでは評価困難な領域がみられたが、小型化や形状の最適化により臨床現場での診断・治療の幅が広がることが期待される。